

普通電車乗り  
進む春が

ふたばサ

ふたばサ  
あふれ秋

\* 今月の花  
アスパラガス

## 三菱朝鮮勤労挺身隊被害者らが韓国法廷に提訴 強制連行・労働の問題解決、新局面へ

## 未解決 朝鮮女子勤労 挺身隊問題

### 10月24日、光州地裁



韓国光州地方法院に訴状提出する梁錦徳さん(中央座る人)、李尚甲弁護士(その右)、高橋信名古屋支援する会共同代表(左端)[コソソ・電子版]

### 韓国大法院の五・二四 判決後、はじめて提起

成熟した日韓関係をつくるうえできわめて重要で、当地の市民運動にも深く関わる訴訟が、韓国・光州ではじまりました。

一九四四年五月、小学校を卒業するかしないかの年齢で、異国日

本の三菱重工業株名古屋航空機製作所に動員されて強制労働被害をこうむった勤労挺身隊被害者四人と(被害者二人の)遺族一人計五人が、原告となつて、三菱重工業(本社東京)を被告として、十月二十四日、韓国光州地方法院に損害賠償請求訴訟をおこしました。

原告らは強制連行・強制労働などの精神的苦痛にたいする慰謝料と未払い賃金として、一人当たり一億百万ウォン(約七百七万円)の支払いを求めています。

原告らは一九九九年三月一日、日本政府・三菱重工業を被告として名古屋地裁に損害賠償請求訴訟(「名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟」)を提起、一審(二〇〇五年)、二審(二〇〇七年)で敗れ、二〇〇八年十一月十一日、最高裁で最終敗訴しています。

今回の韓国での訴訟は、去る五月二四日、韓国大法院が、日本の植民地支配のもとで徴用された被害者が三菱重工業と新日本製鉄を相手に提起した損害賠償請求訴訟事件について、賠償責任を認定、原審判決を破棄して事件を控訴審

裁判所に送りかえした判決以後、韓国で初めて提起された損害賠償訴訟として注目されています。

### 個人の損害賠償請求 権は消滅していない

日本の裁判所が、日韓請求権協定を根拠に、「個人請求権は消滅した」としているのと違い、五月二四日の韓国大法院は「個人請求権は消滅したのではない」としました。その理由は、①日韓請求権協定第一条によつて日本政府が大韓民国政府に支給した経済協力資金は、同協定第二条による被害者の権利問題の解決とは法的には対応関係がないこと、②同協定締結当時、日韓両国政府間には、日本の朝鮮半島支配の合法・非合法に関する合意がなく、日本の国家権力が関与した人道に反する不法行為や植民支配と直結した不法行為による損害賠償請求権が、請求権協定の適用対象には含まれなかったこと、です。

「勤労挺身隊おばあさんと共にする市民会」は「日帝強制占領期間十万人余りを強制動員した代表的な

# 韓国・勤労挺身隊おばあさんと共にする市民会 「戦犯企業三菱を、再び法の審判台に」



【上】韓国光州地方法院に提訴に向かう原告と支援者 [ハジメ新聞・電子版]  
 【下】提訴後の記者会見。「日本最大の軍需企業の撤退！」のスローガンを掲げる人も。 [朝鮮日報・電子版]

戦犯企業三菱を、再び法の審判台に立たせる訴訟」として、この訴訟を全面支援します。

十月二十四日の提訴後、韓国光州市議会内で開かれた記者会見には、原告のヤン・クムドクさん、キム・ソンジュさん、イ・ドンリョンさん、パク・ヘオクさん、キム・チュンゴンさん(遺族)をはじめとして、弁護士(チエ・ボンテ、イ・サンガブ氏他)、勤労挺身隊おばあさんと共にする市民会のスタッフら、そして名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟をたたかっていた弁護士事務局長岩月浩二弁護士、同訴訟する会の高橋信共同代表、平山良平氏らが参加しました。

## 愛知グループ紙誌 拝見

●ひらき座瓦版(発行日人業劇団ひらき座 二〇一二年十月七日)

○蛾璃馬亜訪日騒動見聞録「ガリバーがやってきた!」・壮大な風刺エンターテインメントを!  
 演出・柴田民雄  
 ○【声】ひらき座と私 : 蔡一恵  
 ○【団員紹介】 : 陳千果さん  
 ○【今後の予定ピックアップ】十月二八日(日)一四時から、愛知朝鮮中高級学校(愛知県豊明市・名鉄本線「中京競馬場前」下車。徒歩十五分)で、「八郎」を上演し

ます。いまだ高校無償化の対象となっていない朝鮮学校。実際に校舎を見て知ってもらおうという企画です。当日は十一時からコリアン食材やグッズの販売もありま  
 ●愛高教情報(第二〇九六号)発行日愛知県高等学校教職員組合 二〇一二年十月二日  
 ○【晝鐘】島根県松江市: 県庁街の一角に竹島資料館: 竹島問題の根本には歴史認識の問題がある:

過去に正面から向き合うことは新たな惨禍を防ぐという未来志向の意味を持つはずだ:  
 ○【私と〇〇シリーズ】私と韓国・日韓教育実践研究会を通じて、韓国の小・中・高校の歴史教師と交流するようになって十年ほど経つ。: 現在、竹島・尖閣諸島問題で日韓・日中関係がギクシャクしているが、こういう時だからこそ、も「草の根交流」がますます重要である。

# 平壤宣言

## 十年の逆風こえて 日朝国交正常化へ

日朝平壤宣言十周年。あらためて日朝国交正常化及び成熟した日韓関係を期し、幾人かの方々に寄稿いただきました。【続】【編集部】

### 交流の底辺

釋 仁 空

(真宗大谷派僧侶)

「平壤宣言一〇周年」といわれ  
ても、何も変化なく行動していま  
す。またまだ底辺で蠢いているだ  
けなのです。  
僧侶として、近代仏教の朝鮮宗  
教侵略を見つめないわけにはいき  
ません。しかしその見つめる方法  
すら確立していません。いま  
だ「一九四五年」に到達していな  
いと考えています。

この冬、ソウルに史料を贈りま  
す(東国大学)。一九二七年に真宗  
大谷派が発行した『朝鮮開教五十  
年史』の復刻史料です。宗教侵略  
僧侶として歴史学徒として、確実  
に底辺で蠢いているのです。

この秋、朝鮮への宗教侵略年表  
の編纂を開始します。完成すれば、  
ソウル・平壤に贈るつもりです。  
再来年の予定です。  
再来年、交流の底辺はやつと平  
壤に届きます。反省の気持ちだけ  
は届くことでしょうか。  
こんな程度では、なさけないや  
ら、恥ずかしいやら。しかし、「す  
ること」はしています。「こんな程  
度」を開き直って生きています。  
僧侶として歴史学徒として、確実

に底辺で蠢いているのです。

台筆

### 錯覚の外交

吉岡 弘晴

(元 市交通労組役員)

日本は日韓基本条約や日中共同  
声明及び日中平和友好条約により  
先の侵略戦争にピリオドを打った  
つもりであったが、それは錯覚に  
過ぎなかった。私は予てから日本  
が北朝鮮と国交を回復しない限り、  
「戦後」とは言えないと考えてい  
たが、今回の領土問題を見て、ま  
だ生温い考えであったことを反省  
している。

日本は韓国に対しては賠償責任  
として当時の金額で十一億ドル(一  
ドル＝約三六〇円)を支払い、中  
国に対しても経済支援という名目  
で三兆円余を出して、それで戦争  
責任を果たしたつもりであった。  
しかし、両国ともその資金を戦争  
で被害を受けた個人々人の償いに  
回さず国力回復の資金に使ってし  
まった。だから両国民の多くは日  
本が戦争の責任を取ったという意  
識は希薄である。さらに現在でも  
「日本の占領支配で塗炭の苦しみ  
を味わった。それに打ち勝って独  
立を勝ち取った」という教育を子  
どもたちにしている。  
これとは対照的に日本は平和憲  
法を制定して戦争責任を明確にし、  
「戦争の放棄、戦力不保持や交戦  
権の否認」まで決めたが、数年後  
にはアメリカの戦略変更に従って  
戦前の道へ逆戻りをし始めた。ま  
た、かつての戦争を「侵略ではな  
く遅れたアジアを解放する戦だつ  
た」とする教育が幅を利かせ、戦  
争犯罪者が合祀されている靖国神  
社へ公然と政府の要人が参拝する  
ようになった。マスメディアの発  
達によって、それらの行動が寸時  
に世界中に伝えられる世の中にな  
っている。  
だから私はもう一度原点(一九

一年前に他方の締約国に対して文書による予告を与えることにより、最初の十年の期間の満了の際またはその後いつてもこの条約を終了させることができる。以上の証拠として、各全権委員は、この条約に署名調印した。

四五年八月十五日)に立ち返って日本の外交を考え直す必要があると思っている。万一、中国が経済上のリスク覚悟で日中平和条約第5条の「欄外参照終了条項」を発動するよな事態になったら日本はどうするのか。今の政府は無策ではないか。石原前都知事を先頭に「日本も早く核武装をして対抗すべし」と叫んでいるが、それで日本の安全が保障されると思っているのだろうか。それだけの資金があるのなら、かつての戦争で被害を与えた国々の国民(個人)にきちんと賠償金を払ってすっきりした方が却って安全ではないだろうか。

## 国交断絶の中のわが家②

金 宗 鎮

〈千種区〉

(前号からの続き)ところが、「朝鮮人狩り」の名人たちがいて、インターネットで私の息子の元国籍を一生懸命世間に知らせるありさまである。

五人の孫たちの内、朝鮮人だから朝鮮学校へ通う、最もまともな二人だけが「高校無償化」から除外され、その受けた経済的損害は大きい。「朝鮮人狩り」を控えて朝鮮人支援をお願いしたい。これも国交断絶のもたらす日常だ。

ちなみに孫娘たちのピョンヤン訪問のお土産も最近「制裁」の

せいで税関をパスできず、若い人たちが泣かせている。

日朝国交正常化は遅すぎる。国際的にも類例がないほど長期にわたる。長引く対決は当初には考えられなかった新たな問題を次から次へと発生させた。ミサイル問題、核問題、拉致問題、原爆被災者問題、従軍慰安婦問題、朝鮮高校生無償化除外等々。甚だしきことに、すでに一定の合意のある歴史認識をくつがえす事態があらわれ

「南京虐殺は無かった」との

たまう人物に減税を期待して、百万の票を投じた選挙民たち。減税の恩恵のためには、アジアの人々の信義を失うことの重大さに気づかない。三菱に強制連行されたハルモニたちに「九九円」の補償を思いつく、日本の政治モラルの貧しさに怒りよりも大きな不安を感じる。

日本は日々に、アジアにおける地位と友誼を傷つけつつあるかのように見える。経済大国にかけがえが見え始めたが、それにもまして重大なことだと、日本国民は気付いてほしいと、心から願う。

世の中、金と力だけで無い。日朝国交正常化に対しても、「北朝鮮は経済支援のために急いでいる」との視点は日本自身の外交にとつて貧しくて哀しい。アジアとの対話と交流を第一義にすべきだ。アジアの平和と発展を国策にすべきだ。

在日の我家はこれからも国交断絶のぬかるみをいく。

つい最近も、愛知県朝鮮人囲碁大会に日本棋院所属の専門棋士を審判に招いたところ、韓国当局筋

から横ヤリが入って、韓国人棋士から辞退を申し込まれてしまった。また、大阪での韓国人系新聞社主催、歴史シンポジウムへの、私のパネラー参加の決定が、大阪にある韓国当局筋の申入れでキャンセルのうきめにあつた。著名な上田正昭氏の基調報告がある同シンポには、数百名の日本人参加者があ

る。今回私は三度目の参加だが、日本政府の朝鮮制裁に呼応して、「朝鮮籍」の私たちと韓国・日本人の交流を阻む新たな動きだが、日本国の対朝鮮、在日朝鮮人制裁は私たちの日常にまで加えられつつある。

私は、断交の克服に良識の發揮されんことを願う。何はともあれ、日本政府の無条件国交正常化への外交努力が望まれる。また、国交正常化を促進する運動を願う。

バラの木に バラの花咲ク  
ナニゴトノ不思議ナケレド  
隣りに 交隣の道開ク  
ナニゴトノ不思議ナケレド

(金)

※日中平和友好条約第五条の「終了条項」

1 この条約は、批准されるものとし、東京で行われる批准書の交換の日効力を生ずる。この条約は、十年間効力を有するものとし、その後は、2の規定に定めるところによつて終了するまで効力を存続する。2 いずれの一方の締約国も、

訪朝報告

風圧あつても  
清楚・スツキリ

風貌日々変わる「ピョンヤン」

小出 裕

がんばれ！ 平壤宣言

日朝共同宣言十年目を迎え、この十月（八日から十三日）、「日朝教育・文化交流を進める愛知の会」の訪朝団（竹内団長「日朝同会事務局長」ら十五名）に加わり、訪朝する機会をえました。とりあえず印象深い、貴重な見聞のうち二・三、報告させていただきます。



スツキリ味とスパイス味

中国北京空港から朝鮮順安空港に向かう高麗航空便のなかで、アフリカ方面に土木事業支援に向向いていたという朝鮮人技師と隣り合わせた。私が日本人だとわかり彼は愛想よく話しかけてきた。「大地震大変でしたね。復興は進んでいますか」「ご心配をいただき感謝します」と民間外交辞令でかわした、つかさず彼は「日本と我が国との関係は…」と柔らかな表情のまま、手のひらを背中合わせにして、さらにつづけた。「しかし私たちの仕事ではコマツ（日本の重機）は欠かせません」。

日本のどこから？と聞かれ答え

ると、「ああ、ヒロシマと同じ被害を受けましたね」という。NAG・OYAとNAG・ASAKIの区別が付かなかつたらしい。あらためて「ナ・ゴ・ヤ」を強調した。

朝鮮入り直前に出会った彼のごとく、コリアンはキムチさながら深くスツキリ味の表現技に長けている。四泊五日滞在で感じたのはまさに、この味わいと日朝間および国際関係の風圧とスパイス味であつた。

ピョンヤン宣言へのバネ

日本との交流事業の前線にたつ朝鮮対外文化連絡協会（対文協）スタッフの解説が印象に残る。

二〇〇二年の日朝ピョンヤン宣言前後、国交がない関係とはいへ、何度も訪朝する日本の経済・企業との関係者、専門家らと具体的に現実的な、深いやりとりを交わす時期がありました。二〇〇九年六月、日本政府がとつた朝鮮との輸出入全面禁止措置でそれがなくなり、今となつては過去の話となりましてが…。

日朝ピョンヤン宣言の、「よくぞ

ここまで」という内容は、国交がなくとも互いに努力して出来た、それまでのやりとりがバネだった、と理解できる。

新ジャンル 曲芸劇

短い滞在期間ではあつたが、観光ポイントにはいずれも、『この国の今』が観察できた。例えばサーカス公演には正直、参つた。

ごつた返す入場者の列の隙間から、かすかに案内看板の文字が、「民族古典劇『春香伝』…」。

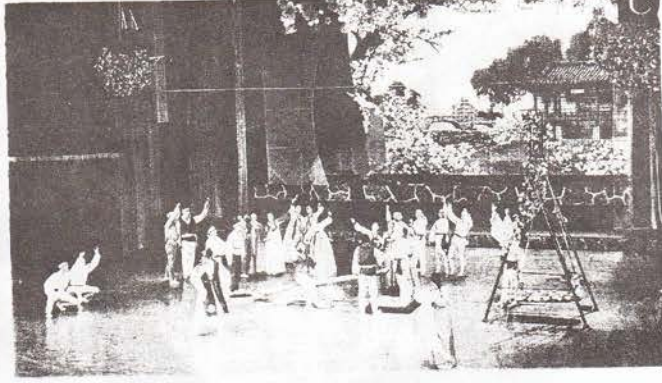
朝鮮でも『春香伝』は人気を呼ぶんだ、サーカス演目の中にその一場面が挿入されるんだ、程度にしか予想しなかつたが、そうではなかつた。

『春香伝』の物語が全てサーカス仕立てで演出されていた。空中曲芸、地上曲芸に加えて、突然大水槽が観客席近くまでせり出して、水中曲芸がコラボした。春香と夢竜の身分制を超えた愛の物語に、観客の歓声、驚声そして悲鳴さえ伴つて、文字通り劇的な緊張感と高揚感が劇場内を支配したのだつた。『曲芸劇』の誕生！

この公演がわずか二日前（十月

※この記事の写真＝サーカス舞台写真は『労働新聞』（10.13付）から、その他は筆者撮影のものです。

写真【A】朝鮮対外文化連絡協会を表敬訪問。左側後ろ向き、手前から洪善玉副委員長・桂成訓氏・金清美さん。向かい合つのが訪朝団一行。【B】移動バスから大城山公園にある民俗村をみる。



写真【C】サーカス劇場で民族古典劇『春香伝』の舞台。【D】大同江ビール工場でのお昼休憩の風景。【E】黄虎男  
日本局長(左)と金清美さん(右)。対文協主催の歓迎宴で。

八日)に序幕したこと、そしてこの『曲芸劇』がこの国の「文学芸術発展と勤労者の教養活動に寄与する」と、位置づけられていることを、現地の新開で、後に知った。

### 稲刈りボランティア

今回の訪朝は十月、稲刈りの時期だった。朝鮮入りの初日、順安飛行場から平壤のホテルに向かう道中と四日目の郊外にあるリンゴ果樹園見学の道中、ほぼ稲刈りの終わった田園や協同農場の風景が目に入った。今年の収穫量は？台風の影響は？農民の表情は？対文協K氏の説明に力が入る。それも、稲刈りは他人事ではないからだ。

「この時期、都市で仕事をして

いる我々も農村支援に出て、稲刈りをします。」ローテーションを決めて、農場に向向く。海外からの代表団への対応日程と重なり、対文協の事務所も人手不足になりがちという。

「実は私も農村支援から帰ったばかりですから」と、日焼けした顔の由来を明るく説明するK氏。農繁期、都市から農村に駆けつけるボランティアは、今は「制度」になつてきているのだろうか。

### 「有能な兵士と結婚したい」

軍隊の集中動員で進める都市建設はいまやこの国の流儀として定着してそれはピョンヤンの風貌を見事に変えている。さて、これは国家事業の中でどのように見積もられているのだろうか、つい好奇心

心が湧く。体制・制度を超えた解説をどなたかにお願ひしたいものだ。

街角で普通に見かけるる兵士姿。「娘さんが結婚相手としてまずあげるのが、有能な兵士。いろいろな現場で鍛えられ、思想性が高く、決断力があり、組織の中で自分の力が発揮できるから、と言うのがその理由です」とエピソード風にK氏が語る。

団に加わった美容器具の会社社長が、訪問した先々で繰り返し表現した「清楚で美しい朝鮮の若い女性」。K氏は奇しくもその内面を端的に説明したわけだが、若い女性らの内面は「先軍」を掲げるこの国への愛国表現でもある、と私はみた。



E

がんばれ！平壤

### ピョンヤン訪問 報告会

日朝共同宣言十年の今年、「日朝教育・文化交流を進める愛知の会」の団が訪朝しました。そのメンバーの一員による報告会を先を通り催します。  
日時：二〇一二年十一月二十四日(土)  
午後六時〜七時半  
※午後五時からコーヒータイム  
※午後七時半から食事会(会費別)  
場所：名古屋KJ文化研究会事務所  
名古屋千種区池下二の十一の二(原田ビル2階2A)  
報告者：小出 裕日朝協会愛知県連合会事務局長  
会費：一、〇〇〇円  
主催：名古屋KJ文化研究会(会長・金宗鎮)  
090-1832-3643

### 会場略図



原田ビル

### 対話集会

# 消してはならない ピョンヤン宣言

## 東海行動実行委員会



対話集会の風景 (十月十四日、名古屋YWCA)

### がんばれ！平壤宣言

「(朝鮮民主主義人民)共和国パッシングが国であるかのような風潮」のもとで「平壤宣言を記憶の向こうに消してはならない」。

十月十四日、『平壤宣言十周年対話集会』はこんな呼びかけで名古屋市内で開かれました。主催は二年前から活動を続ける市民運動、「韓国併合百年」東海行動実行委員会。「一人の人間として、また市民運動の責任」の視点を大事にと、一週間前には同趣旨で街頭宣伝行動も行いました。

講演型の学習会とはひと味違う、参加者対話型の集会。参加者の自己紹介を兼ねた一言メッセージのあと、東アジア情勢のさわりを解

いた韓基徳氏、および同宣言を活かすために市民の知恵をと提案した磯貝治良氏の、二つの問題提起があり、それを踏まえ、活発な議論をかわしました。

司会をつとめた岩田氏は、「参加者からいろいろな角度から意見が出され、落ち着くところに落着きたい集会だった。最近共和国へ行かれたお二人から、共和国と接する日本官僚の動きや共和国政府の動き、共和国の街の様相や一般市民の現状を聞いたことは、集会に花を添えた。この集会受到けて、今後の進め方を考えていきたい」と語っています。

## 外務省へ 「がんばれ！平壤宣言」の声、伝える 制裁 スポーツ・文化・人道で 例外措置

県連事務局は、この間不調に終わっている『ピョンヤン宣言』の

蘇りを期待する方々の声や、朝鮮民主主義人民共和国にたいする制裁措置の解除を求める声を、直接政府の担当者に伝えようと、十月五日午後、外務省北東アジア課に出向き、朝鮮担当スタッフと面談

面談は、事前に知らせおいた、当方が関心を持つ以下の事項をめぐって進んだ。

- A、対「朝鮮」制裁関連では、①政府の意図とその効果・効力の有無。②制裁の例外措置の最近の事例。③全面的ないし段階的、部

分的解除とその条件、契機、その見通し。④朝鮮側の政策変更を促すための、圧力でないアプローチ。⑤双方に不利益となる『制裁』措置の是正を求める声への所感。

B、日朝ピョンヤン宣言関連では、①『日本と朝鮮 愛知版』九月号掲載の市民の声についての所感。②日朝ピョンヤン宣言に関する国民向けの公式的な政府見解。③日朝ピョンヤン宣言の中核内容である国交正常化は、『共同宣言』方式で可能という意見についての所感。

担当スタッフのおおよその対応は次の通り。

一、対朝鮮関係の認識・見解および政策の基本は、四月三日『我が国の対北朝鮮措置について』と題する内閣官房長官の発表文で示している。【別項参照】

一、制裁措置をとっている中でも、スポーツ・文化、人道事業にかかわる分野では、政府としても打つべき手を打っている。サッカーの国際試合における日本選手の朝鮮入国問題、朝鮮選手の日朝入国問題、朝鮮にある遺骨調査のための日本人の朝鮮入国問題では、当事

葉言の隷奴

愛知県在日朝鮮人史道遥

第二十八回

協和会への道 (下)

西秀成

者や赤十字社、国際機関でのやりとりを踏まえて、進めている。

一、朝鮮外交についての、国民・市民・グループから出されている

参 考

(内閣官房長官発表) 我が国の対北朝鮮措置について

平成二十四年四月三日

平成一八年十月の北朝鮮の核実験実施発表を契機に我が国が実施している「北朝鮮籍船舶の入港禁止」の措置及び「北朝鮮からのすべての品目の輸入禁止」の措置、並びに平成二一年五月の核実験実施を契機に実施している「北朝鮮に向けたすべての品目の輸出禁止」措置については、期限が四月十三日に到来するため、本日閣議に

意見などは、議会を通じて、また諸刊行物を通じて把握につとめて

いる。さいきん、議員から熱心に質問されたり、レクチャーを求め

おいて、これらを一年間継続するための所要の手續をとった。

北朝鮮は、拉致問題について平成二〇年八月に合意した調査のやり直しにまだ着手していないことなど具体的な行動をとっておらず、核・ミサイル開発を継続する

一方、韓国哨戒艦沈没事件、国連安保理決議に違反するウラン濃縮計画の公表、延坪島砲撃事件といった挑発行為を繰り返しており、最近でも、「人工衛星」と称するミサイルの発射を予告している。こうした北朝鮮をめぐる諸般の情勢を総合的に勘案し、これらの措置の継続が必要と判断した。政府としては、諸懸案の解決に

られる機会が多くなつていると感じている。

一、首脳間の『共同宣言』方式による日朝国交正常化は、一つの合

に向けた北朝鮮の具体的な行動を引き出すため、我が国独自の措置及び

国連安保理決議に基づく措置を引き続き着実に実施していく。措置の執行に当たっては、関係省庁が緊密に連携し、厳格に対応していく。また、北朝鮮が発射を行わないよう、改めて、強く自制を求め

ていく。政府としては、日朝平壤宣言にのっとり、拉致、核、ミサイルといった諸懸案を包括的に解決し、不幸な過去を清算して、日朝国交正常化を早期に実現するとの基本方針に変わりはない。以上の一連の措置を含め、我が国が北朝鮮に対してとる措置は、

理的な案と考えている。一、郵便小包でもない、封書郵便物が朝鮮に届けられてない「制裁」実態の指摘については、調査する。

北朝鮮側が拉致、核、ミサイルといった諸懸案の解決に向けた具体的な行動をとる場合には何時でも、

諸般の情勢を総合的に勘案して、その一部又は全部を終了することができるとする。そのような行動を速やかにとるよう、特に拉致問題は被害者及び御家族が高齢となつており一日も早く解決させるよう、北朝鮮に強く求める。

政府としては、平成二〇年八月の日朝間の合意事項を履行する方針を維持する考えであり、この機会に、改めて、北朝鮮が、拉致、核、ミサイルといった諸懸案の解決に向けて具体的な行動をとることを求める。

**豊橋矯風会**

名古屋市内での鍋屋警察署の動きとは別に、豊橋警察署でも警察を中心にした「矯風会」を結成した(参陽新聞、一九三六年四月五日)。

この記事によると、豊橋警察署が市役所ならびに商工会議所の後援を得て、市内在住六〇〇〇余名の朝鮮人が豊橋矯風会を結成した。矯風会は、一四地区(豊橋大衆新聞五月六日では一地区、五四八世帯)に組織され、一地区会ごとに世話人二名を選出し、派出所巡查、同署特高係、町代表、方面委員、市社会課などが指導係となり、「内鮮融和ならびに豊橋市内の生活改善をはかる」のスローガンを掲げた。

最初に取り組んだのが「鮮人服を日本服にあらためさせ、米代を支払はせ、居住を清潔にさせるほか、人格の陶冶すなわち児童の義務教育を完了させるほか、敬神の念を涵養せしめ、近代日本人として雄飛せしむるべくつとめ」などという課題だったという。

それが、「予想外の成績を挙げていたので」(参陽新聞前掲)、山口署長は豊橋矯風会をまとめて豊橋矯風会連合会を組織し、五月六日に発会式を挙行したのだが、式の前に豊橋署の特高巡查が君が代を朝鮮語に訳して、町内の組織員で会員に配布し、その後巡查が町内

に出向いて教えこむなどをしてい(豊橋大衆四月二六日)。豊橋署を訪れた右翼団体愛国青年団朴来壽は、矯風会の趣旨に賛成して、「国旗」五〇本の寄付を申し出たので、矯風会長山口署長はこれを受納し、会員に掲揚させることになった(豊橋日日、三六年七月二四日)。

参陽新聞が書いているように「かゝる内容をもつた会は県下において豊橋をもつて最初とされ、これが成果は各方面の注目的となつてゐた。しかし、これは大阪府内鮮融和事業調査会や矯風会の経験が、『特高月報』に掲載されて全国に知られていたもので、その模倣であつたともいえよう(注一)。

一九三六年末になると、協和会の設置に合流するために、豊橋矯風会は愛知県協和会豊橋支部とし

て再編成された。一九三七年三月に相愛会は解散されて、二月一七日に発足した協和会に統合された(参陽新聞三七年三月一日)が、豊橋矯風会は町別単位で組織されていたので、協和会各分会として存続させることとなった(新朝報三七年二月一六日)。

**愛知県協和会の成立**

一九三五年一〇月二八日、愛知県庁で「半公営」の「内鮮融和団体協和会」の設立についての会議が開かれた。県特高と県社会課では、内務省の方針にもとづき「朝鮮人のつ保護教化施設に関し再三協議を重ねてゐたが大体案を作成した」(名古屋新聞、三五年一〇月二六日)ので、関係者を集めた協議会が開催された。出席者は、以下のとおりである。

- 篠原知事、久慈学務部長、岩上警察部長、葛西社会課長、秋葉特高課長、大岩市長、藤岡・神田両助役など数十名

内務省の方針というのは、三四年一〇月二六日の協議会で決定した、日本人を指導者として自ら進んで内地同化させるための新組織

が創立し、過去の朝鮮人組織は解散するとの内容のことである。出席したのは、内務省社会局、同警保局、拓務省、朝鮮総督府などの高級官僚たちである。

三六年には内務省社会局福利課では、協和事業費を計上したため、地方府県では協和会設立が進んだ。愛知県でも一〇月八日に愛知県協和会が結成された(名古屋新聞、三六年一〇月一日)。本年度から直ちに「半島同胞の生活改善、教育救済など諸事業の実行にうつり、ことに多い未就学児童に対する具体的方策を樹てる」として、「経費は国庫補助三千元、総額一万円」としている。役員は、次のとおりである(新愛知、三六年一〇月九日)。

- △会長、篠原知事△副会長、永井学務部長、早川警察部長△常務理事、宇佐美社会、秋葉特高両課長

△理事、斎藤衛生、永山刑事、山口教育、三沢職業画課長、中村新栄警察署長、松橋名古屋市教育部長、金原市保健部長、白浜名古屋憲兵分隊長、河村名古屋

屋地裁検事  
 △幹事、小川県会計課長、山田  
 名古屋収入役  
 △評議員、柵木検事正、足立県  
 総務部長、梶憲兵隊長、大岩名  
 古屋市長、神田市助役、岡谷会

議所会頭、青木、豊田商副会頭、  
 菅野岡崎、神戸豊橋、森一宮、  
 泉崎瀬戸の各市長、野田県会議  
 長、松沢町村会長、矢田中部社  
 会事業連盟理事長、伊藤衆善会  
 理事長

**豊橋矯風会の結成**  
 (参陽新報 1936.4.15)

**矯風會を結成して**

**半島人の生活を改善**

**内鮮融和の徹底化に**

**更に聯合會組織の計畫**

「矯風會」は、朝鮮人の生活改善を目的として、豊橋市に設立された。この会は、半島人の生活を改善し、内鮮融和の徹底化を図ることを目的として、更に聯合會組織の計畫を立てた。この聯合會は、豊橋市内外の朝鮮人を対象とし、生活改善の事業を実施する。また、内鮮融和の徹底化を図るため、各種の文化交流事業を実施する。この会は、豊橋市内外の朝鮮人を対象とし、生活改善の事業を実施する。また、内鮮融和の徹底化を図るため、各種の文化交流事業を実施する。

**内鮮融和の新機關**

**協和會設立の運び**

**廿八日に準備協議會**

協和會の設立は、内鮮融和の促進を目的として、豊橋市に設立された。この会は、半島人の生活を改善し、内鮮融和の徹底化を図ることを目的として、更に聯合會組織の計畫を立てた。この聯合會は、豊橋市内外の朝鮮人を対象とし、生活改善の事業を実施する。また、内鮮融和の徹底化を図るため、各種の文化交流事業を実施する。この会は、豊橋市内外の朝鮮人を対象とし、生活改善の事業を実施する。また、内鮮融和の徹底化を図るため、各種の文化交流事業を実施する。

**協和會設立の運び**  
 (名古屋新聞 1935.10.26)

このように、朝鮮人の組織であるのに、朝鮮人の名は一名もない(注2)。こうして、協和會は完全に在日朝鮮人の教化、統制組織に変質したのである。

協和會の代表者は、一九三九年五月一五日に開かれた協和會の地方大会で次のような挨拶をしなればならなかった(注3)。「協和會は、このような「奴隷の言葉」を聞いて、満足する組織であつた。

本日協和事業地方大会ヲ開催セルル、に当リマシテ私共ノ師父ト仰ギ又慈父ト御慕スル南朝鮮總督閣下ヲ始トシ頭官皆様ノ御臨席ノ下ニ只今ハ親シク總督閣下ヨリ御懇情溢ル、御訓話ヲ賜ハリマシテ私共一同ハ無上ノ光栄ト深キ感激トヲ覚エルモノデアリマス。

顧レバ明治四十三年日韓併合以來畏モ一視同仁ノ御聖旨ニ依リ下リテハ昭和十一年内鮮一體化ノ基本目標ノ下ニ協和會ヲ組織セラレ其ノ厚キ指導ニ依ツテ今日協和事業終局ノ目的ノ為メニ及ハズナガラ一臂ノ力ヲ致シツ、アリマスコトハ之ミナ皆

様御尽力ノ賜デアリ且ツ上聖恩ノ有難キニ感泣スル次第デアリマス。

御訓話ノ趣旨ヲ体シ此ノ感激ヲ永ク持テ続ケマシテ又今日中央協和會結成ノ趣旨ニモ鑑ミ今後益々協和事業ノ完全遂行ヲ図ルト共二人格ヲ陶冶シテ新東亜建設ノ聖業ニ総努力ヲ注クベキコトヲ御誓シテ答辞ト致シマス。

(注1) 前出、樋口雄一「協和會」。

大阪の協和會は、泉尾、今宮、鶴橋の矯風會が「調査會」に組み込まれたが、その後、三五年には今福、中津、中本、三六年には曾根崎、網島、堺に矯風會がつけられている。

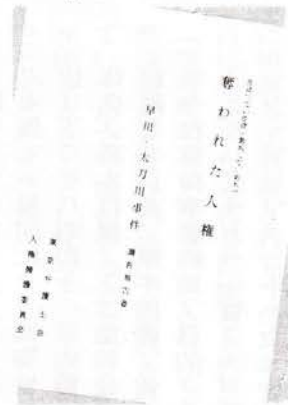
(注2) 一九四一年の中央協和會でも評議員三〇名のうちで、朝鮮人の名前は、尹致昊、韓相龍(中樞院參議、朝鮮生命保險社長)、玄俊鎬(中樞院參議、湖南銀行頭取)、崔麟(毎日新聞社長)の四名だけであつた。

(注3) 参加者代表金宗根の「答辞」である。大会は朝鮮總督南次郎を迎えて、商工館講堂で開かれ、愛知県知事、中央協和會理事長の挨拶、南の訓話があつた。「(社会関係書類) 知多郡大野町(現、常滑市) 役場文書」

再審請求へ

# 時を経て振り返る 早川・太刀川事件

(三) 柳田常樹



「3、たくさんの人達に支えられてのつき  
それを藤島宇内氏に送り、人名  
の漢字や内容についてチェックし  
てもらい、「閉ざされた春」いう題  
名で千部ほど作成した。そして、  
その内容を共有してもらいたく、  
みんなで手分けして周りの人達に  
渡すと、それを読んだ人達から、  
本人の話を直接聞きたいという要  
望がたくさん寄せられた。

それを受けて、救済会として藤  
島宇内氏に講演を依頼し、もつと  
大々的な県民集会をやるうという  
ことになった。七月二二日に開か  
れた講演には東京から離れた青森  
という地でありながら二五〇名ぐ  
らいの人が集まり、救済の大きな  
賛同の輪が広がっていくことを実  
感した。そして七月二五日、「早川  
・太刀川青森救済会」を正式に発

足させ、代表には妻の上司である  
山本さんという方が引き受けてく  
れた。その後は代表を中心に積極  
的に救済活動を展開していった。

私達が救済活動を始めた頃だが、  
私の職場に、朝日新聞の記者が来  
て、私は呼び出された。連れて行  
かれた先は、知事室だった。中に  
入るとなぜか妻が先にいた。知事  
室に入るのは、勤めだしてから初  
めてだった。私と妻は知事と対面  
する形で座り、記者もかたわらに  
同席している。

妻はこの場が設定された主旨を  
理解していたのか知事に対し、「兄  
は韓国語を研究するために行った  
のであり、けっしてスパイではな  
い」と力説した。知事はそれを受  
けて、「私が外務政務次官だった頃  
の部下が、今韓国大使をやってい

るので、救出に努力するよう、私  
からも手紙を書いておきましょう」  
と言ってくれた。私達にかけてく  
れたその知事の申し出は真摯にあ  
りがたいものだった。知事は竹内  
俊吉といい、代議士から青森県知  
事になった人だ。

翌日。朝日新聞は「知事、救済  
に協力」という見出しを出した。も  
ちろんその記事を載せてくれたの  
は、知事室に案内してくれ、とも  
に話を聞いてくれた彼だ。その後、  
知事は約束どおり、韓国の後宮(う  
しろく)大使に書簡を送ってくれ  
た。

そのとき、記者が知事に会える  
ようにとりなしてくれられた事は、そ  
の後の青森における私たちの救済  
活動に、計り知れない感謝すべき  
効用をもたらした。というのも県

トップの知事が持てる権限を生か  
して、救済活動に協力してくれた  
ことで、私たちの公務員としての  
身分が保障され、さらには今まで  
立場や役職などによって救済に賛  
同ながらも、具体的に動けなかつ  
た人達がそれぞれの合った形の配  
慮や手助けを具体的にしてくれる  
ようになったからだ。活動のため  
の休暇を協力してとりやすくして  
くれたり、幼い娘の世話など身近  
でありがたいものが多かった。

事件に直接かわからない様々な  
人達がそれなりの立場で支援して  
くれたことに本当に心から感謝す  
ると同時に、救済活動を精一杯、  
堂々とやりとげるべきだと力強く  
後押しをされた気持ちになった。

## 4 東京弁護士会 報告書の威力

七月十五日、韓国の軍法会議は  
日本人二人をスパイと断定し、「内  
乱扇動罪」という罪名で懲役二〇  
年、資格停止十五年の重刑に処し  
た。また、起訴されたいた韓国  
の人達も全員、重罪となり、うち

八名がその後処刑されてしまった。日本人二人についていた弁護士たちは、直ちに無罪を主張して上告したが、八月二十五日に棄却された。

私達家族は韓国での法的な救済はほとんど期待していなかった。七月三十一日、早川、太刀川の両家は、東京弁護士会に人権救済の申し立てをした。それを受けた東京弁護士会は精力的に、事件の真相究明のため調査活動を開始し、そしてその年の暮れ、十二月二十六日に「奪われた人権、早川・太刀川調査報告書」として、二人に関する詳細な調査内容を日本国内において公表した。その内容により、無罪ということはますます正当な形で見えてきた。

事実に裏付けられたこの調査報告書の威力はとても大きかった。法と証拠に基づいた専門家集団によるこの正式な報告書は、救済会、マスコミ、官僚、政治家、学者など必要と思われるところへ配布されていった。この結果、腰の重かった日本政府もようやく動き出した。

いままで、東京弁護士会や日本

弁護士会などがたびたび、早川・

太刀川両氏の即時釈放に関する声明を出して、この事件は「基本的人権と自由を剥奪するものだ」と糾弾し、日本政府に対して即時釈放のための外交的措置を早急にとるよう促していた。それにもかかわらず、政府が解決のために動いているように全くといっていいほどに見えなかった。しかもこのような動きの中で、政府はこの不当な拘束に対して韓国政府に一度も抗議をしていないのだ。私はこの事実にとっても強い憤りを感じていた。

本来、国家というものは自国民が海外で不当な迫害を受けたとき全力で保護することは当たり前のことであり、むしろ国家はそのために存在しているといっても過言ではない。しかし、政府はその姿勢すら国民に見せることをせずに、それに順ずる形で、国民もあまりそのことを問題にしていなかった。

諸外国では、このような事件の対応、受け止め方が全く違っている。おそらく、日本は周りを海に

囲まれていて、そのうえ単一民族に近いせいか、普段は国家ということ意識する必要もなく、他民族におびやかされる危機なども感じることがない。そのため他国と

かわるこの種の事件についても、他国とかわる意識が鍛錬されていないために、「そんな危ないところに行つて、しかも迷惑をかけて日本人として恥だ」と無意識のうち思ってしまうのかもしれない。そんな中でも、私達は救援活動に對し地道に努力を続けていた。例えば、兄公二は弟の書いた本を入れた重い鞆を肩にかけて一人で、北は北海道から、南は沖縄まで全国各地、約一四〇箇所におもむき、そして一万三千人の人達と直接会って、弟の無実を訴えていた。このような努力のもとに、ようやくこの救援が全国的な政治課題の一つに浮上してきた。

その年の九月一九日に開催された作家の小田実氏やジャーナリストの青地農氏、それに社会党、共産党、公明党の党首の呼びかけによる「韓国の朴政権による政治的抑圧問題を訴える」集会が東京の

明治公園で開かれ、壇上から、集會に集まった三万人の人達に向けて、兄公二が「弟の無実と救援」を訴えた。

そして東京弁護士会が出した「奪われた人権、早川・太刀川調査報告書」という報告書が出たことにより、田中内閣は追い詰められるように、ようやく韓国政府に対して、二人の返還を求める本格的な交渉を始めた。当時アメリカもベトナム戦争での退勢が挽回出来ず、諸外国の協力を必要としていただけに、日韓のこのような険悪な対立をいつまでも放置しておくことに懸念をいだいていた。

翌年の一九七五年二月二十七日夜、二人は約十ヶ月の拘留のすえ、突然、保釈となつて帰国した。その帰国はあまりに唐突で、懲役二〇年、資格停止十五年という有罪は確定したままだった。韓国政府になんら抗議することなく政治決着が図られたのだ。

羽田空港で、飛行機から義兄が幼い息子を抱きながら降りてくる姿をテレビで見て、本当に良かったと思つた。

# 小さな統一

## 痛感！分断の不自然さ

石黒真知子



リ・ブニとヒョン・ジョンファ

予想に違わず感動的な映画だった。二年前、千葉県幕張メッセで開催された「四一回世界卓球選手権大会」で史上初の南北朝鮮統一チームが結成された。この実話に基づいて制作された映画だ。

「コリア」という名前の統一チームになったものの、練習方法、ライフスタイル、話し方等あまりにも違っていた南北の選手たちは、当初はことごとくぶつかってしまいが、徐々に心を通い合わせていく。両国チームを代表する選手、南のヒョン・ジョンファと北のリ・ブニはダブルスを組み、強敵の中国を破りチームを金メダルに導いた。青春、友情、民族の誇りが全開の作品だ。

韓国のコーチが選手に激を飛ばすシーンがある。ブルーの南北統一旗の真中に線を引いて、これは何かと問う。

「休戦ラインです」「これは卓球台だ。真中の線はネットだ」とコーチ、自分たちは卓球を通して一つになり、優勝、民族の栄光を勝ち取る、と激励する。このシーンにムン監督の今作品にかけた思いが集約されている。

主演のハ・ジウォン(ジョンファ役)とペ・ドゥナ(ブニ役)は卓球の猛特訓をし、実際にヒョン・ジョンファから指導も受け素晴らしい演技を披露している。ハ・ジウォンは韓国ドラマ「ファン・ジニ」「シークレットガーデン」等で日本でもファンの多い女優だ。ペ・ドゥナは是枝裕和監督の「空気人形」で好演している。統一チームが結成された九〇年

代は大きな歴史的イベントが連続している。

八九年のベルリンの壁崩壊、二年後のソビエトの崩壊、数十万人という巨大な多国籍軍が展開された湾岸戦争、九一年には南北朝鮮が国連に同時加盟した。冷戦終結後の新しい変化の波が両国にも押し寄せていた。そんな歴史的背景のなかで実現したスポーツを通しての南北統一。文化、スポーツは時に政治の風向きをいち早く反映し、ストレートな分かりやすい形で市民に浸透させるツールの役割を果たすものである。

改めて、一つの民族がかくも長きにわたり分断されていることの不自然さを痛感する。今年にはピョンヤン宣言一〇周年にあたる。私たちの国がまず、共和国と国交を樹立して、統一の足かせを解消していかなければならない。

映画終了後の帰り道で、朝鮮高校の女子生徒たちの高揚した声が飛び込んできた「ずっと泣いてたよ」「観てよかった」「ブニ可愛いすぎ！」

来年一月に映画館上映の予定である、お見逃ししないように。

HANA特別上映会実行委員会 御中

韓国語教材専門書店 ハングルの森

映画HANA ロードショー前売券 予約申込書

電話:052-710-7382 FAX:052-710-7384

映画HANA ロードショー前売券を予約します。

E-Mail: order@eac-hg.jp

名前		枚数	枚
住所	〒 -	都・道・府・県	
電話番号		E-Mail	

※お申し込みは、この用紙に記入して、FAXして下さい。

# 白磁の人 朝鮮に渡った 浅川 巧の 数奇な人生

## 【主催者からの案内文】

一九一四年、林業技師の浅川巧は朝鮮半島へと渡った。荒れ果てた朝鮮半島で、浅川は「自然法に帰せ、それより道はない」という信念に基づき、多くの山林を緑化復元して自然との共生を目指す。何よりも地に根差した活動をし、現地の人々を理解しようとする浅川。緑化を進める一方、私欲を捨て、貧しい子供達が学校に通えるようにするために少ない私財を費やす。激動の時代に自らの信念を貫き通そうとする浅川の姿に、多くの人が感銘を受けました。

映画は、一九三一年に四〇歳という若さで生涯を閉じた浅川巧の数奇な人生を綴ります。浅川伯教(のりたか)・巧(たくみ)兄弟は、明治時代半ばに今の山梨県北杜(ほくと)市高根町に生まれました。日本の植民地統治下の朝鮮半島に渡り朝鮮工芸の美に魅せられ研究した人です。

兄の伯教は、朝鮮の美術に魅了され、一九一三(大正二)年朝鮮に渡り、七〇〇箇所にも及ぶ朝鮮王朝陶磁の窯跡を調査し研究しました。陶磁器の時代的変遷を明らかにした研究成果は、朝鮮陶磁史の基本文献としてまとめられ今日に至っています。

弟の浅川巧は、一九一四(大正三)年、兄の伯教を慕って朝鮮半島に渡り、林業技師として荒廃した山々の緑化に奔走するかわら、兄とともに「朝鮮白磁」をはじめとした朝鮮陶磁の研究に心酔し、と「朝鮮陶磁名考」を書き残しました。巧はまた、木工芸品の中に民衆芸術の美を見出し、優れた文化として日本に紹介しました。

巧は、日本の植民地支配の時代にあつて、現地の人々に同じ人間として接し、朝鮮語を話し、その地の風俗や文化を愛し、まわりの人々に敬愛され、一九三二(昭和六)年に四〇歳の若さで朝鮮の土となりました。今も、ソウル市忘憂里(マンウリ)にある墓は、彼を慕う韓国の人々によって守られ続いています。



映画 第30回韓日歴史・文化フォーラム 30回記念特別上映会

## 『道～白磁の人～』

監督 高橋伴明  
製作年 2012年  
配給 ティ・ジョイ

日時: 2012年11月7日[水] 18:00  
場所: 愛知韓国会館 5F大ホール

【出演】  
浅川巧 - 吉沢悠  
今青林 - ベ・スビン  
大北咲 - 酒井若菜  
浅川伯教 - 石垣佑磨  
柳宗悦 - 塩谷瞬 他

〒453-0013 名古屋市中村区竜島1-6-2  
(地下鉄東山線「竜島」駅③出口徒歩1分)

参加費: 500円  
席に限りがございます。事前に必ず申込してください。

【お申込・問合せ先】 FAX: 052-452-1716 E-mail: jigyo@mindan-aichi.org

韓日歴史・文化フォーラム事務局(民団愛知内) 金栄一(キム・ヨンイル) TEL: 052-452-6431

ふりがな		性別	男・女
お名前		生年月日	
お電話番号		FAX番号	
E-mail			
ご住所			

※お申し込みは、この用紙に記入して、FAXして下さい。



金宗鎮

※ハングル資料は、若松 實 編著『対訳注解 韓国の古詩調』(高麗書林 1979)による

朝鮮太平期：山水、田園礼讃

士禍はあったが政局は安定し、朝鮮王朝は太平時代を迎える。

漁夫歌

この世の煩わしき知らぬは 漁夫なり
一葉の舟 大海原に 浮かべ置き
浮世の万事 かなたに 時を知らず
李賢輔(リ・ヒョンボ)【註17】

月の日々 盃をはなさず
気の満ちて 美味かな 美味かな
病なきかぎり 醒めることなし
宋 寅(ソン・イン)【註18】

うれしき今日かな 楽しきかな今日
古今に類なき 今日の日々よ
来る日も来る日も 今日のごときあれ
金 緑(キム・グ)【註19】

花の散るを 鳥よ悲しむなかれ
風に吹かれ散るは 花のさだめ

去りゆく春のしわざなれば うらむなかれ
宋 純(ソン・スン)【註20】

語るなし青山よ 形なし流水よ
値なき 清風よ 主なき明月よ
われも無し 分別知るよしも無
く老いゆかん
成 渾(ソン・ホン)【註21】

田園に春来たれば この身の多忙なり
花の木は誰が移し 粟草園はいつ耕すや
童よ 竹よこせ 笠から編もうかな
春には花いじり 薬草の園おこし
童 竹切れば われ まずは笠を編む
成 運(ソン・ウン)【註22】

青山 あるがまま流れ あるがまま
山も水もありのまま この中 吾
もありのまま
ありのままに育った身 老いもあ
りのまま
金麟厚(キム・リンフ)【註23】

17 어부가 이현보
이 등에 시름 업스니 漁父의生涯이로다
일편편舟를 萬頃波에 띄워 두고
一葉扁舟를 萬頃波에 띄워 두고
인세를 다 니젓거니 날 가는 주를 알랴
人世를 다 니젓거니 날 가는 주를 알랴
송 인

팔병도 아니 들고 입덧도 아니 난다
每日에 病 업든 듯이 란 깨지 말미 어더리
19 자암 김 구
나온차 今日이야 즐거온차 오늘이야
古往今來에 類 없는 今日이여
每日에 오늘 같으면 무삼 성이 가새리
20 옥당가 문암정 송 순
風霜이 섞어 천 날에 잣 피운 黃菊花를
金盆에 가득 담아 玉堂에 보내오니
桃李야 꽃이 온 양 마라 님의 뜻을 알페라
21 우계 성 훈
말 업슨 靑山이요 戀 업슨 流水로다
감 업슨 淸風이요 님자 업슨 明月이라
이 중에 病 업슨 이 몸이 分別 업시 들으리라
22 대곡 성 운
田園에 봄이 오니 이 몸이 일이 하다
꽃남은 뒤 옮기며 藥밭은 언제 갈리
아희야 대 뷔어 오니라 샷갓 먼저 걸으리라
23 김 인후
靑山도 靑로 靑로 綠水도 靑로 靑로
山 靑도 水 靑로 山水間에 나도 靑로
이 중에 靑로 자란 몸이 늙기도 靑로 하리라

朝鮮의 兩班・士大夫にとつて、自然は天である。天とは太極(理と氣)。天の理に従うことは人の性。性と理の一致こそ性理学となる。性理学者らにとつて、自然も人の世も天の命ずるところに従うことである。よつて、彼等は自然を愛で、自然を敬う。書画双絶、詩書画一致の士大夫たちはその思想の表現として、詩を創作し山水画を描いた。山水画には詩による讚を書き加えた。士大夫による山水画は文人画となり、絵師の技芸とは次元の異なる作品となる。文人画は南宋画、南画とも呼ばれ、中・朝・日の人々の愛するものとなった。朝鮮王朝の士大夫たちの自然をうたう時調は、自然の中で静かに学問することを理想にしながらも、政争に敗れた傷をいやす面もある。ともあれ、自然礼讃、山水と田園は時調の主な詩材である。